

令和2年度 第2回八千代市観光振興懇談会議事録

- 1 会議名 令和2年度第2回八千代市観光振興懇談会
- 2 日時 令和2年11月13日（金）午後2時～午後3時35分
- 3 場所 八千代市役所旧館4階 第1委員会室
- 4 議題 (1) 各種調査結果の分析と課題の整理について
(2) 今後の進め方について
(3) その他
- 5 出席者 **【委員】**
八千代商工会議所まち興し委員会委員長 太田 博
八千代市農業協同組合 齊藤 等
株式会社JTB千葉西支店長 瀧上 富雄
一般社団法人八千代市観光協会会長 杉山 智基
京成バラ園株式会社ガーデン部部长 丸山 和彦
秀明大学観光ビジネス学部長教授 市川 友英
秀明大学観光ビジネス学教授 木村 義彦
市民委員 速水 清
市民委員 浜野 俊輔

【事務局】
石川経済環境部長
渡邊室長，齋藤主査，三木主査補，富田主事（観光推進室）
- 6 公開又は非公開の別 公開
- 7 傍聴人 1人（定員3人）

————— 開 会 —————

事務局（渡邊室長）

定刻となりましたので，始めさせていただきたいと思ひます。本日は，お忙しい中お集まりいただき，ありがとうございます。本日，進行を務めさせていただきます観光推進室長の渡邊でございます。よろしくお願ひいたします。

本会議は、八千代市審議会等の会議の公開に関する要領に基づき、公開の会議となっております。会議録作成のため、会議内容を録音させていただきますので、あらかじめご了承ください。そのため、個人情報に関わる事項や、特定の企業団体に利益不利益となる発言につきましては、ご留意いただけますようお願いいたします。また、皆様の机の前に置いてあります議事録作成支援システムを使用して議事録を作成するため、ご発言の際には、手前のシルバーのところがボタンになっておりますので、こちらを押していただきます。次の方が押したら、そちらの方に発言が移りますので、そういった形でお願いしたいと思います。マイクのスイッチを押して、座ったままでご発言をいただければと思います。

それでは、初めに、配布資料の確認をさせていただきます。事務局から事前送付させていただきました事前資料1から3の調査一覧、事前資料4の八千代市観光モニターツアー工程表。本日の配付資料といたしまして、次第、席次表、クリップ留めの会議資料、参考資料といたしまして、「オータムローズパーティー2020」のチラシ、「第4回黒沢池のたたら祭」チラシ、「八千代のキャンドルナイト2020」のチラシ、それから資料一覧の参考資料に記載はございませんが、「やちパンプロジェクト」が特集されております11月3日号の地域新聞となっております。以上不足等がございましたら、お申し出いただければと思います。よろしいでしょうか。

本日の会議の出席委員は9名でございまして、懇談会の開催要件を満たしております。なお、鈴木智委員及び鈴木広紀委員におかれましては、欠席の連絡を受けております。

これからの議事進行につきましては、懇談会設置要領の規定に基づき、市川会長にお願いいたします。

市川会長

はい。それでは、これより令和2年度第2回の八千代市観光振興懇談会を開会したいと思います。皆様、本日はお忙しい中お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。早速議題に入りたいと思います。恐れ入りますが、着座にて、進行を務めさせていただきます。

まず、議題1各種調査結果の分析と課題の整理について、事務局より説明をお願いいたします。

事務局（齋藤）

事務局の観光推進室齋藤です。議題1について、座って説明をさせていただきます。

前回の懇談会でご説明しましたとおり、9月から10月にかけて、観光資源調査や市民アンケート、組織団体調査、モニターツアーを実施いたしました。その調査について、まずは、事前資料1「観光資源調査一覧」をご覧ください。前回の懇談会でのご意見を受けまして、裏面のN033 ボンゴヴィラと、N034 LOCALLOCALGARDENの2つのバーベキュー施設を追加しております。また、「ココシルやちよ」で、市内のバーベキューができるスポットの紹介を行いました。調査については、現在、裏面のN036まで終了しております。

また、事前資料2「観光関連組織団体調査一覧」の組織団体と、事前資料3「観光関連事業者調査一覧」の事業者への調査を行っております。

次に、事前資料4「八千代市観光モニターツアー行程表」をご覧ください。前回の懇談会でご説明しましたとおり、マーケティング調査として、モニターツアーを10月17日土曜日に実施いたしました。今回のモニターツアーは、新型コロナウイルス下での3密を極力回避する観点から、貸し切りバスではなく、マイカーを利用したツアーといたしました。まず、京成バラ園では秋バラが見頃の時期で、「オータムローズパーティ2020」の期間中ではありましたが受け入れていただき、ローズガーデンの園長からご説明をいただくなど、全面的にご協力をいただき実施することができました。次に、道の駅やちよのやちよ農業交流センターでは、道の駅やちよや農業体験についてご説明いただいたあと、サツマイモの収穫体験を予定していたのですが、雨天のため中止となってしまいました。昼食は、やちよ農業交流センターにあるみんなのレストランで、地元に関連する料理ということで、八千代カレー等のメニューを用意していただきました。その後、八千代八福神のうち、吉橋の貞福寺と高津の観音寺に行き、お堂で住職から説明などをしていただきました。

事務局からの説明は以上になります。

市川会長

はい、ありがとうございました。

それでは、次に調査結果の説明及び課題の整理を、私からお話をしたいと思います。ここに調査の結果一覧が出ておりますけれども、これについて、一つずつ説明をさせていただきたいと思います。取りまとめを私が担当いたしましたので、ご意見、ご質問等は後程お聞きいただければと思います。時間の都合上、一方的にご説明させていただくことをお許しいただければと思います。よろしく願いいたします。

皆様には、この各種調査結果及び広域観光連携の取り組み、2020年10月末におけるコロナ下での観光についての資料9までをご説明した後、お時間を差し上げますので、このアンケート結果、並びにご自身のご意見でも構いま

せんけれども、八千代市の現状分析と課題をお考えいただければと思っております。メモの紙を差し上げますので、ご自分なりに書いていただいて、そして後程ご意見を頂戴できればと思います。今後、この計画の策定を進めていきますけれども、その中での基本方針の策定に結びつけていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。ただし、今日皆様からいただいたご意見、事務局の方で考えた意見、そして、後程説明させていただきましても、ワークショップ等でいただいた意見、これらの三つを総合的に勘案して、基本方針の策定に結びつけていきたいと思っておりますので、皆さんの意見がそのまま通るということではございませんので、ご理解いただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

時間も限りがございますので、私の方から説明をさせていただきたいと思っておりますが、これを事細かに説明していきますと数時間かかってしまいますので、要約という形でさせていただくことをご理解いただきたいと思っております。

それでは、順番が前後いたしますけれども、資料4の八千代市民の観光意識調査、ここから少しご説明をさせていただきたいと思っております。その資料がお手元にあると思っておりますので、それを見ながら、皆さんの方で整理をしていただきたいと思います。この調査はインターネット等で行いまして、20代から70代までの400人の市民の方々をアットランダムにアンケートをさせていただきました。参考までに、結果として、3人に2人が15年以上お住まいの方という結果となりました。

ポイントは、まず愛着度ですけれども、要は八千代市に対して愛着度があるかと言う事ですが、これは大変高く、3人に2人の人が肯定的で、自然が多いということの評価しているというところがございます。また、今後も自然や新川を活かした水辺に観光の将来性があると考えている方が多いようがございます。認知度については、京成バラ園が群を抜いておりまして、次に、道の駅やちよ、新川千本桜、あるいは河津桜となっております。やはり、京成バラ園と道の駅が観光の双璧と市民の方も考えているようです。今後の方向性ですけれども、自然を活かすエコツーリズム、あるいは、フラワーツーリズム、ブルーツーリズム、こういったものに期待していると。一方、観光に行く際の道路渋滞ですとか、そういった観光インフラを今後の課題として見ているということがわかりました。また、外国人観光客、今はコロナでほとんどお見えになっておりませんが、この外国人観光客については、現時点では取り組まなくてもよいのではないかという意見が大半を占めました。八千代市の方で作成しております観光アプリ「ココシルやちよ」ですけれども、認知がまだ低いということもわかりましたので、今後の取り組みで強化していければいいのではないかなと考えております。

今回、八千代市民の方には、特に観光の看板である京成バラ園と道の駅やちよについて、踏み込んでアンケートさせていただきました。京成バラ園の認知度98.3%ということで、1,000人中983人の人が知っているというところで、非常に高い数値を示しました。ただし、推奨度、つまり、この施設を他の人に勧めますか、自分で来訪をしていますかというところになると、60%、あるいは40数%という形になりますことから、この辺についての課題解決が必須であるのではないかなと思います。これができれば、もう少し入場者数等も伸びるのではないかなと考えています。道の駅についても、10人中9人、90%が認知しております。ただ、今後の魅力度、もう少し魅力がほしいという指摘とかですね、あるいは、これもインフラ、駐車場の問題とかですね、そういった課題の解決をすれば、入場数も増加するのではないかなと思われれます。

次に、資料5をご覧ください。八千代市近隣市民の八千代市の観光認知の調査でございます。都市型日帰り観光を中心とする八千代市においては、最も重要なアンケート結果であると考えています。ここに記載している市にお住まいの600人を対象にアットランダムに実施させていただきました。できるだけ一つの市に偏らないように平均的に各市から選抜をさせていただいております。近隣にお住まいの方々が八千代市を訪れる理由は、観光については実は20%に満たない19.数%なんですけれども、ドライブとしての来やすさ、あるいは、散策やショッピングを兼ねて気軽に訪れる人が多いということがわかりました。ここでも市民調査同様に、やはり自然に引き寄せられ、来訪するという人が多いようです。観光目的で訪れた場所は、京成バラ園と道の駅やちよが断トツです。他にも、いちご狩りや村上緑地公園の彼岸花、あるいは、これはショッピングですけれども、イオン八千代緑が丘店、ここに来る人達も相当数いらっしゃいます。例えば、越谷のイオンも年間5千万人ぐらいを呼ぶ施設になっておりますけれども、そこからどうやって市内を回遊させるのかというところをうまくやると、交流人口を増やすきっかけになるのではないかなと思われれます。また、交通手段は、78.9%の人がマイカーということで、圧倒的にマイカーが多いようです。今後、このコロナ下での観光についても、公共交通機関を利用するよりは、マイカーでお見えいただいた方が、八千代市にとってはよろしいのではないかなと考えております。八千代市の優れている点というところをキーワードに探りますと、花、川、自然、こういったキーワードが出てきます。今後必要な施策は、新しいもの、あるいは、観光の目玉への取り組みが必要ではないかというご指摘もあります。そんな結果が出ましたので、皆様にご報告をさせていただきます。

次に、ちょっと膨大なというか、何ページにも渡っておりますけれども、資料の1をご覧ください。観光資源調査の中間総評ですね。先程事務局の方から、調査一覧を事前に皆様の方にお渡しした等の説明がありましたけれども、これについて、私の方で取りまとめたものをお話しさせていただきます。確認ですけれども、昨年からの調査については着手しております。主要な観光資源についてということで、当然季節感のあるものがありますので、昨年からさせていただいているということですね。

前提ポイントは、二つあります。一つは、首都圏から近い都市型観光地域であるということ。また、温泉地やリゾート地、宿泊施設が非常に少ないというところから、日帰り観光地域である。こういった前提のもとに、今回調査をさせていただきました。

観光資源の考え方というのは、実は分類すると三つあります。一つは自然系ですね。山とか川、海とか、そういったものですね。二つ目に、人文系。例えば、美術館とか博物館とかの施設ですね。要は、人が絡んでいるもの。そして、三つ目が複合系、街並みとかそういったものですね。ただし、八千代市については、例えば、古い街並みとかが残っている地域とか、そういったところは基本にございませぬので、今回の観光資源調査については、自然系と人文系に限り、私の方でさせていただきました。

まず、自然系ですけども、やはり新川の千本桜、これに非常に大きな評価をさせていただきました。先人の方が10数年前に植えた桜が、今、見事に観光資源になってきているというところからすれば、今後もさらに桜の木を植えたり、そういったことで投資をするのであれば、まさに今後も大きな観光資源の柱になっていくんじゃないかなと思います。

また、先程少し触れましたけれども、実は、村上緑地公園の彼岸花ですけども、これは今こそあまり注目されておられませんけれども、今後、もっともアピールすべきフラワーツーリズムのキラコンテツになるんじゃないかなと思っています。これも書いてありますように、彼岸花というのは、普通は赤い花でして、埼玉県の中着田で数百万本の赤い絨毯の花が咲きますけれども、八千代市の彼岸花はですね、実はいろいろな色があるんですね。私も初めて知りました。彼岸花はすべて赤いものかと思っていましたら、様々な色のコントラスト、あるいは、林の中の丘陵地帯に咲いているんですけども、歩きながらしっかり見える。散策しながら見えるという、その見せ方ですね。そういったところに、非常に大きなポテンシャルを感じております。ただし、インフラですね。駐車場の問題ですとか、お土産屋さんとかそういったものが近所にないかですね。そういった、観光としてのお金を落とすシステム等がまだ未整備なのかなというところもありますので、この辺を課題解決として、観光インフラ

を整えていけば、今後楽しみな観光商材になるのではないかなと思っています。その他にも、自然系はここに書いてあります。ありますけれども、特にと言うとこの2点です。

次に人文系ですけれども、ここもやはり京成バラ園さんと、新川を含めた道の駅やちよが突出しています。他の調査でも同様でありましたけれども、どちらも入場者数が少し停滞気味であるというところが、大きな課題ではないかなと思います。

祭りやイベントについては、もちろん三大祭りというものがありますが、そのうちの「八千代ふるさと親子祭」あるいは、「源右衛門祭」ですね。これは、今までの取り組みも含め、通常の地域の祭りでは集客できない近隣からのお客様を集客しており、今後も力を入れていくべきではないかなと思っています。通常、地域の祭りというのは、あまり市外から人は集まらないんですね。あくまで市民の方々が楽しむ祭りというところに収斂していきます。通常は、市外からお見えにならないんですが、やはり都市型観光においては、気軽に来れるというところで、今後も大きなコンテンツの一つになっていくのではないかなと思います。

八福神巡りですね。八福神については、いろんな課題があります。多少取り組みの温度差があるかもしれません。ただ、今までの取り組みの歴史等々を考えると、何らかの平準化したサービスをするというような形にして、ブラッシュアップをした中で取り組めば、今後も面白いコンテンツとして期待されるのではないかなと思っています。

体験プログラムは、農業交流センターを中心にしっかりした実績があります。これは、農業部門での一つの柱ではないかなと思いますけれども、今後もこの日帰り観光に欠かせない資源として力を入れていくべきではないかと思わずし、農業交流センターの体験プログラムにこだわらず、様々な体験プログラムを今後も創造していった方がよろしいのではないかなと思っています。

スポーツでは、ランイベントが様々なものあるんですけども、面白いと思うのは、ネオスピードパークですね。カートですね。カート場に、実は17,000人ぐらいの登録者があってですね、クローズドマーケットではありますけれども、交流人口の増加には寄与しているというところを申し述べておきたいと思います。

八千代市の郷土博物館、文化伝承館は、通常、一般的にこういった施設というのは、市民向けの施設なんですね。市外の方を呼ぶようなコンテンツではありませんけれども、先程申し上げたように、都市型観光では、企画によっては市外からも人を呼べることもあるのではないかなと思っています。

他に、先程事務局の方から話がありましたけれども、バーベキュー施設を見させていただきましたが、非常に面白い、ユニークな施設も多くて、これはフードツーリズムの一つの強みとして、今後も誘客を図れるのではないかなというふうに考えています。

今、要約で述べましたけれども、観光資源のヒアリングシート、これを私の方で1枚ずつ全て作成いたしまして、計画の方に載せていきたいと思っておりますので、私の方からは中間総評のところの総括とさせていただきます。

次に、観光関連組織団体資料の2、3をご覧ください。先程事務局から観光関連組織団体、あるいは、観光関連事業者の調査というような説明がありましたけれども、これについて少しコメントさせていただきます。

観光関連組織団体、つまり、八千代市の観光を引っ張っていく、牽引していく組織ですけれども、当たり前の話ですけれども、主体組織は市役所の観光推進室、並びに、杉山さんの八千代市観光協会、この二つが両輪です。ただし、その他のですね、八千代市の観光を担っていく、その他の組織の現状というのが非常に重要だというふうに思っています。今日はお見えになっておりませんが、特に八千代商工会議所さんにつきましては、祭りの実行や特産品のブランド化というところに、かなり尽力していただいていると思います。また、通常、他の地域や街に存在する旅館組合とか、ホテル組合とか、そういった組織は今回ないので、ホテルへのヒアリング、文化団体へのヒアリングも実施させていただきましたけれども、まだ観光については、取り組みとしてはまだ希薄な部分があるのかなというふうに感じました。

特筆すべきは、実は団体の中にはないんですけれども、浜野さんの方でいろいろやっていたりしている八千代花と緑の応援団、みなも、郷土歴史研究会、太田さんの街づくり市民の会、こういった取り組みは、民間活力の活力源として、今後非常に活躍が期待できるのではないかなと感じています。

次に資料3観光関連事業者の調査のところですが、当然のことながらプロの方ですね、旅行会社のプロの方のいろいろな、あるいはそれに関連している方々のご意見を頂戴致しました。やはり非常に鋭い意見が多々ありましたけれども、要約するとポイントは四つかなと思っています。

一つ目は、特に発掘すべき資源としてはどんなものがありますか、というところに、先程私の方で調査させていただいて、コメントさせていただいた村上緑地公園の彼岸花は今後も人を集めることができるのではないかと、というご指摘がありました。二つ目は、やはり最も強く力を入れてるところは、バラ園と新川を含む道の駅やちよであるというご指摘。三つ目にですね、広域連携がとても重要ではないかという指摘ですね。これは、八千代市だけの観光資源ではやはり限界があるということで、近隣の街々とうまく連携を図りながら、ある

いは、親和性のあるコンテンツをうまく組み合わせながら、人を集めるべきではないかなというご指摘もありました。そして、四つ目に、今後狙うべきマーケットを女性層に的を絞っていった方がいいのではないかという意見もありました。これはご指摘の通りで、女性という非常に発信力が高い、あるいはですね、財布を握っているところを考えても、このご指摘はごもっともではないかなと思っています。

以上が、私どもで一方的にいろいろと話をさせていただきましたけれども、各調査結果の要約としての中間総評とさせていただきます。あくまで中間総評でございますので、次年度までこの観光振興計画策定は続きますので、そういった中で、例えば、さらにこういった資源の調査をするとか、あるいはこのコロナ禍でいろいろと流動的な部分もありますので、そういったところを取りまとめたうえで、最終的な総評として皆様の方に、次年度ご提示申し上げたいと思っております。

最後に、すみません。あと二つありました。資料6と資料7について、これについては、簡単にご説明させていただきます。資料6は、秀明大学の観光ビジネス学部の学生アンケートですね。そして、資料7は、先程事務局の説明のあったモニターツアーについて、これはもう簡単にさせていただきます。

学生のアンケートからですね。観光の街のイメージがまだ八千代市はないのではないかなという指摘ですね。ただ、一方では、若い学生も自然の豊かさを指摘しておりました。京成バラ園については、学生のうち10人中6人が認知していたということも含め、やはり京成バラ園は、幅広い年齢層を網羅していることがわかりました。学生の方で指摘している中で、先程観光事業者の方からもご指摘ありました広域連携、これについて、もう少し踏み込むべきではないかなという指摘もありましたので、お話をさせていただきます。

モニターツアーにつきましては、32人の方が今回お見えいただきました。市内外の参加者が、実は、来てみたら意外によかったという意見がほとんどでございました。ここについても、京成バラ園と道の駅は、最高の評価でありました。今回のモニターツアーの参加者の居住地域から判明したのですが、近隣の市や東京のお客様には、八千代市の認知度ですとか、来訪意欲が一定程度旺盛なんですけれども、やはり1時間半以上のところだと足を運びにくいというところで、やはり八千代市を取り囲む市からの誘客が重要ではないかなと認識しております。

最後に、資料8と9のところでございます。広域観光連携の取り組みの部分と、コロナ下での観光についてですけども、これについては、皆様の方でお目を通していただきまして、今からお願いする現状の課題の整理のご意見に参考にしていただきたいと思います。ポイントをあえて申し上げれば、一つはより

強い観光ブランドにするための広域連携の重要性を一応うたってあるということと、旅行の方向性として、今、安・近・短ですね、安くて、近くて、短い、そういった旅行。これをマイカーで行く、あるいはストレス解消に野外、あるいは自然を求めるといったところでしょうかね。こういったところも参考にさせていただきながら、後程ご意見を頂戴する際に、参考にさせていただければと思っております。

一旦、すみません。重複しますが、私の方で一方的にお話ししましたけれども、これから皆様の方にメモを差し上げますので、15分程お時間を差し上げます。今、2時半ぐらいですから、45分過ぎぐらいまでですね。そこで、皆様の方から、このアンケート、あるいは私の説明の中で、こういったことが現状の課題ではないかなというところですね。考え方としては、私が一つの例を申し上げると、あらゆる調査で京成バラ園と道の駅やちよがフィーチャーされているということも含めて、ここにたくさん人を呼ぶということが八千代市の観光の中では一つの大きな目的であると思っておりますけれども、ただ、先程申し上げたように、実は京成バラ園さんも道の駅やちよさんも、交流人口が増えていないんですね。ここが大きな課題ではないかなと思っておりますので、交流人口とここでは使いましたけれども、入場者数ですね。入場者数の増加、これがちょっと課題ではないかと、こんな感じですね。このように、皆さんの方で、こういった課題があるのではないかとというご意見を頂戴して、ここに書いていきたいと思っております。

太田さんから順番に、当然ながら重複していく部分もあると思っておりますが、一人一人からご意見を頂戴して、一旦これを整理していきたいと思っております。先程申し上げましたように、これが全て観光振興計画の策定に直接結びつくかどうかは、今後の議論という形になりますし、事務局並びにワークショップ等々での意見も踏まえて、骨子をしっかりと確定していきたいと。作業をさせていただいて申し訳ありませんけれども、ご理解とご協力をお願いできればと思いますのでよろしくお願いたします。前置きが長くなりましたけれども、50分ちょっと手前ぐらいまでお時間を差し上げますので、よろしくお願いたします。

いかがでしょうか。大体出揃いましたでしょうか。一旦、もう少しで時間を区切りたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

それでは、時間となりましたので、この辺で整理させていただきたいと思っております。たくさん書いていただいたと思っておりますので、そのメモ用紙は後程事務局でお預かりさせていただきまして、詳細な所まで見させていただきたいと思っております。大枠のポイントを、各自2つずつ位お話いただければと思っております。

当然重複する部分もありますので、その場合は、私も同意見ですみたいな感じで進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、太田委員から、お願いいたします。

太田委員

私は毎日犬の散歩をしているので、新川観光について考えました。新川の景観を一番に考えると、例えば、草は年に1回か2回刈っているんですけど、刈ったそばから、草が伸びてしまうんです。刈り方が機械で、1回バーッって刈って、終わりなんですよね。それが何とかならないものかなと。

そして、農業関係の人が、例えば、自分の田んぼの畦道すら草を刈らないし、農道はまず刈らない。だから、新川に歩いて行く時に、朝はもう朝露で靴が濡れてしまうという状況もあって、私は散歩する時に、2ヶ所ぐらいの農道を通るんですけど、そこは私が草を刈っています。

そういうちょっとしたことをみんなでやれないものかなと。例えば、農業の人をお願いして、草を刈ってもらおうとかね。

市川会長

誘客の受け皿作りみたいなことですかね。

太田委員

例えば、新川に関わる人が、一緒になってやろうよっていうような形の組織づくりができないものかっていうことが一つですね。

草刈りについては、下の方は危ないかもしれないですけど、もう何十年刈っていない場所がいっぱいありますから。

一番、モデル的にすごく綺麗なところは、逆水橋の所に齊藤鑿泉管工さんという会社があるんですね。水道屋さんの。その前の川岸の下は、全部いつ行っても綺麗になっていて、多分、齊藤鑿泉管工さんがやってくれているんだろうなと思って。八千代市の川沿いで、ああいうような景観を綺麗にできたらいいなと思うんですね。

市川会長

同様の意見の方、いらっしゃいますか。新川の景観とか、水辺のそういったメンテナンスっていうところが、ちょっと私も同じように考えているという方、よろしいですか。はい。その他にございますか。

太田委員

あとは、もうお金の掛かる話で、やっぱり遊歩道は拡げて欲しいし、ちょっとつまずきそうな所の整備はいつやるのかなとか。

市川会長

観光インフラですかね。

太田委員

はい。地域でない人が、他所の人が来た時に、歩きやしくないような所が随分見受けられますしね。県にお願いするとか、いろいろやらなくてはいけないことがいっぱいあるんですけど、観光に適するような整備がやっぱりちょっと厳しいなと思います。

市川会長

はい。ありがとうございます。

斉藤委員、お願いできますか。

斉藤委員

はい。私は農業団体ですので、できれば、八千代の梨を入れていただければと思います。

市川会長

八千代市の梨のPRですね。

斉藤委員

また、八千代は酪農家さんが結構多いので、多いとかまだ残っている方なので、酪農家さんも資源にならないかなと。酪農体験といったツアーをやっているんですけど、そこら辺もちょっと利用をしながらということ。

市川会長

酪農体験のブラッシュアップみたいな。推進ですかね。

斉藤委員

そうですね。

市川会長

同様の意見の方、いらっしゃいますか。

速水委員

難しいんだけど、いちごとか。

斉藤委員

特産物ですね。

市川会長

はい。特産物のPRとか、掘り起こしとか、その辺ですか。特産物のリブランディングですね。

斉藤委員

はい。

市川会長

瀧上委員，お願いいたします。

瀧上委員

はい。私はもう少しマクロ的な形で、まず、観光資源ということで考えますと、まずその目的って何なんだろうなって。それは、ここからまた指針を作っていくということなんですけれども、今の千葉県の東葛・葛南エリアの状況からいきますと、人口の流入が全国でもトップクラスが流山市で、そのあとに船橋、柏、印西と続いています。全国的にワーストなのは鎌ヶ谷市であって、そのちょうど中心に八千代市があるということで、八千代市の人口の流入はプラス55なので、減にはなってないということです。今、コロナ禍において、千葉県でどういう状況かということ、まず住宅販売に関しては、この4月から9月の上期で、一都三県で千葉県が1人勝ちです。東葛・葛南エリアで、対前年25%プラスで売れているということで、要は東京都内から千葉県にどんどん人が流入している。なぜ千葉県に人が集中するかということ、今の東京都に住んでいる社会人、主にサラリーマンの方が千葉県に何を期待しているかっていうと、まず、住む環境ですよね。住む環境で重要な要素は何かということ、自然、教育、そして立地。ここを鑑みると、八千代市の観光資源をどうやってブラッシュアップしていくかということ、立地はもう変えられないものがあるんで、自然・教育で考えますと、自然ではバラ園や村上緑地公園があったり、そして新鮮な物を売るということでは、道の駅さんやJAさんがありますねと。教育においては、諸々の体験プログラムがあったり、フードツーリズムもあります。

そして、秀明大学もあるということで、いろんな環境は整っている。

ただ、今はこれが全部点であるんですね。こういったものを、手法はちょっとこれから考えていかないといけないんですけども、線で結んでいって、もっと立体的にアピールすることによって、地域の方も知らないことが多いと思いますので、まずは、地域の方に認知していただく。そこから認知が広がれば、外部の方にもそれが伝わっていく。それが結果、八千代の人口流入にいい影響をもたらしてくるんじゃないかというところで、私の考えをまとめさせていただきます。

市川会長

自然と教育という二つのキーワードを軸にして、今は点であるものを線とか面とか立体にして、一つのパッケージにして市外の方に解っていただくというような感じでよろしいでしょうか。

瀧上委員

はい。

市川会長

ありがとうございます。高所のご意見で、大変ありがたいと思います。

杉山委員、お願いします。

杉山委員

はい。観光協会という立場で、発言させていただきたいと思います。まず、観光資源が多くある中で、八千代市には観光案内所がないので、観光を発信する拠点づくりというのが、インフラとして必要なのではないかなと思います。また、先程先生のご報告にあったとおり、魅力のある観光施設が多くあるんですけども、マイカーの方が多くお越しいただいている中で、やはり駐車場が狭いということが一番大きな問題かなと思います。花を中心として観光資源を考えるのであれば、花の咲く時期はある程度集中してしまうので、やはりインフラとして、駐車場の整備も一つの課題かなと思います。

そして、市内・市外からお客様が来られた時に、そこでお金を落とす仕組みということで、売店や八千代市の特産品、梨もございますし、農産物もたくさん新鮮なものがある中で、農協の直売所はございますけれども、観光地に売店のようなものができればと思います。

市川会長

お金を落とす仕組み作りですかね。

杉山委員

はい。大きなインフラの整備としては、そういったものがあると思うんです。

あとは、やはり行政、商工会議所、J A、観光協会、その他各種市民団体の皆さんと方向を同じにするような観光の振興計画みたいなものを設定されて、計画に沿って、八千代市が今策定をされている第5次総合計画にうまく落とし込まれて、行政と市民団体が一緒の方向を向いて、観光資源を活かした街づくりというものができればいいかなと思っています。

市川会長

各種団体と市の観光のベクトル合わせみたいな。

杉山委員

そうですね。

市川会長

はい。ありがとうございます。こういったご意見にご賛同いただいた方いらっしゃいますか。6名ですね。ありがとうございます。

杉山委員

最後に、新川という観光資源をさらに活かすためには、近隣の佐倉市や千葉市等の印旛沼関連の関係市町村を含めたもう少し大きな観光に関する構想みたいなものが、県ではあるんでしょうけれども、それが各市町村にうまく落とし込まれていないんじゃないかなと思うんです。なぜならば、いろんな団体の方に聞いても、新川に遊覧船や屋形船を浮かべて観光ができたらいいねということを、どの団体の皆さんも考えていらっしゃるんです。県も同じようなことを考えていらっしゃると思うんですけれども、我々も観光協会として、いろいろ考える中において、八千代市の保品に船着場ができるということなんです。県の事業らしいんですけれども、我々はあまりよく知らなかった。船着場ができるんだけれども、どういった船を運航する計画があるのかとか、そういった構想があまりよくわからないまま船着場だけができる。八千代市民からすれば、せっかく船が来るのであれば、農業交流センターや図書館の辺りにも船着場を作って、そこを遊覧できるようにした方がいいんじゃないかなと思うんですけれども。そういったことを考えているセクションがあるのかもわかりません

が、我々には情報があまり入っていないので、やはりもう少し広域の構想みたいなものができているのであれば、我々も連携して、そこにベクトルを合わせていきたいと思っています。以上です。

市川会長

県や近隣都市との連携強化みたいなことで、よろしいでしょうか。

杉山委員

はい。

市川会長

ありがとうございます。

では、丸山委員、お願いします。

丸山委員

どうしてもバラ園のことになってしまうんですけど、バラ園の課題的なものですね。実際に今ご来園いただいている世代の方々を維持しながら、イベント等での若い世代、これは20代30代の女性の集客が一つ。そして、今年はいろいろ初めてのことをやったんですけども、大温室の使い方というのも一つの課題かなと。あとは、お金が絡む問題なのでなかなか難しいですけども、なかなか数が伸びないという中で違うことをやっていかないといけないので、将来的には、夜間の営業に関して、進めていかないといけないんじゃないかという課題があります。

あとは、春のバラ園は結構有名なんですけれども、秋も結構バラって咲くんだということをあまり知られていなかったのかなということで、今年はちょっと今までと違う集客方法を行いました。やはり、集客を伸ばすためには、秋バラの認知度の向上というのが課題かなと思っています。

最後は、なかなか難しいんですけども、どうしてもバラってシーズンなので、バラのない閑散期の集客。このところで、何か集客を伸ばせればいいのかと思うんですけど、考えてもなかなかこれっていうのがないような状況で、今模索しながら、いろんなことをやっているというような状況です。

市川会長

はい。ありがとうございます。

それでは、木村委員、お願いします。

木村委員

私の場合は、八千代市に仕事で来ているだけという形なので、不勉強の部分もたくさんあるんですけども、やっぱり外部から見たという部分で、イメージとかが大事だと思います。ずっと昔から名前だけは知っていたんですけども、今後観光に力を入れていくということであれば、例えば、観光都市八千代じゃないですけども、何かしらの市を挙げての施策が最初に来ないと、イメージ作りはなかなか難しいんじゃないかなというのがまず1点目です。

杉山委員が仰っていた屋形船の話もですけども、その工夫っていう部分で、既存のバラ園さんは結構認知度が上がったと思うんですけども、既存のものを活かす、プラス、何か新しいもの。私はここ10年ぐらい注目してきた街があるんですけども、埼玉県秩父市は、人口5万人ちょっとしかいないんですよ。八千代に比べたら4分の1ぐらいしかいないんです。そこは、少なくとも10年前には、そんなにテレビに露出するというようなことはなかったですね。知っている人は、もちろん札所巡りぐらい知っていたとしても、ここ数年、5、6年でしょうかね。あれだけ取り上げてもらって、それで結構人気の街で、メープルがすごっていうのを知らなかったんですけど。そういう売り方が埼玉県ってあまり得意じゃなかったんですけども、今は、あれだけ露出度が上がるっていうことは、何かしらのヒントとして、こちらの八千代市でも使えるものがあるんじゃないかなというふうに思ったんです。

バラ園さんは、非常に努力をされたと思うんですけども、割と最近の話で、私の知り合いが、「そういえば八千代の方に勤めているんだよね。NHKでバラ園を見たので、知らなかったけど行ってみたいからどうやって行くの。」って聞かれました。だから、知名度は上がっているけれども、やはりそこに至るまでのアピールが、あと一歩足りないっていうのはありますよね。

誰もが八千代って聞いたら何があるっていうそのイメージづくりを市全体としてまず取り組んで、そこから観光というふうに2段階えというのにも必要じゃないかな。私は埼玉県に住んでいて、埼玉も結構人口が増えているようですけども、千葉と埼玉は東京から近いということで、何かヒントになる部分があるのではないかなと思います。

あと近隣だと、例えば、柏だとサッカーのイメージがあるんですけども、八千代イコール何っていうのは、無理やりこじつけるのも難しいんですけども、何かしら生み出していないと、なかなか定着していかないんじゃないかなっていうのがまず感じた点です。

市川会長

八千代市をリブランディングするために、キャッチフレーズを作るっていうことですかね。何とかの街八千代のように。

木村委員

まずそこから第一歩で、それが定着するといいですね。八千代に行くっていうと、八千代っていう駅はないんですかって聞かれました、そういえばないかなと。八千代台とか、中央とか何かついた駅はあっても。八千代中央って八千代だけでいいんじゃないですかね。何で中央って付けるのかな。八千代台があるからなんでしょうかねと。ただ単に八千代ってあれば、そこがもう中心って思うんですけども、敢えて中央ってつけた理由は何でしょうね。

市川会長

これは書かなくていいですか。

木村委員

そうですね。

市川会長

ありがとうございます。

速水委員，お願いします。

速水委員

ここに列挙されているところは、観光資源として現存しているわけですが、花や花火、お祭りはやはり期間が限られていて、短期的なものになるんですね。それはそれで力を入れつつも、やはり年間を通して春夏秋冬、何らかの形でお客を集められるようなものというのは、やはり新川を活用したり、他の土地にないものということで、先程仰っていたような道路近辺を綺麗にしていってというのが一つ。他の市町村と一緒にサイクリングロードを開発したり、あとカヌーの教室みたいなものを行っていたりしていますよね。それから、佐倉市で行っていたんですけど、貸し自転車を使って、気軽に春夏秋冬の印旛沼の様子、こちらでは新川の自然を楽しむようなのは、やろうと思えばすぐにでもできそうな気がするんですけどなかなかいかないと。

先程のいちご狩り、梨狩りのところも、農産物という貴重な観光資源で、お客さんを集める貴重な観光資源だろうと思いますので、農家さんに頼るだけじゃなくて、やっぱり市としても何か盛り上げるような施策を打っていくというのも大切なことじゃないかと思います。

それから、私個人的に寺を巡って御朱印を集めていて、最近佐倉市ではお城の御城印を作りまして、佐倉市は3つぐらいなんですけれども、よく考えるとお城はないですけど米本城とか、勉強するといろんなお城がかつてあったというのが出てくると思うんです。そういうものを発掘して、削り出して、何か観光資源にならんかなと。八福神についても、今はスタンプみたいなものになったんですけども、これこそ御朱印みたいに仰々しくすると、そういうのを集める市民の方が結構いらっしゃるので、そういった何か若い人たちが求めるようなものを編み出して提供していくってのも、一つの観光資源をつくり出していくやり方なのかなと思ったりしました。

中間総評のところで、資源の一つは自然と、何でしたっけ、作り出したものと、あと複合系は今回外したと仰ってましたけども、私に言わせれば複合系こそ大事でして、例えば、浜野さんがやっているバラ街道で、駅からバラ園までバラの街道を作ろうというような。これこそ、長い目になっちゃうんですけども、八千代市としての雰囲気の花の街、バラの街なんだというPRをする良い手立てだと思うんです。話が飛んでしまいますけども、新川、印旛沼に繋がる場所なんですけど、かつて佐倉市の方は鰻屋さんがいっぱいあった。何で最近鰻屋さんがなくなっちゃったかという、新川、印旛沼がだんだん汚くなっちゃって、かつてどっかから鰻の子どもを持ってきてあそこで育てていたんですね。鰻が上ってきたのではなくて、もうちょっと綺麗だったから、そんな事業もあって、今でも鰻屋さんがちょっと残っているんですけども。新川に繋がる印旛沼もやはりもう少し浄化していくことによって、またいろんなかつての産業が復活するというか。雰囲気です。雰囲気。手賀沼の方なんかは一生懸命やっているんですけども、そういった観光資源っていうのとは全く別に、街の美化というか、それが観光資源にも繋がるということで、そういったこともあっていいのかなと思いました。長々とすいません。

市川会長

ありがとうございました。
浜野委員、お願いします。

浜野委員

二つありまして、順番はバラ園の方から。今、駅前にバラを植えていただく。言葉としてはですね、駅を降りるとバラの笑顔が迎える街八千代と。そういうイメージで、東葉高速の社長さん、バラ園の社長さん、市の行政のトップの方に働きかけを行いつつあります。これは当然、我々だけではできないんで、その駅前を中心に、我々が頑張って数十名になったような形を、地元の方

で作っていただくような働きかけを始めました。少し動きが八千代中央と八千代台で、出てきております。

市川会長

駅バラの設置みたいな感じですか。

浜野委員

そうそう。駅前がもう迎える。バラで迎えるというふうにしていきたい。バラの街づくり、もちろん行政とか企業でやっていただければ一番いいんですが、やはりなかなか動かない。こういう計画があっても、3年後、5年後じゃなくて、やれば1年、2年でできていくという世界なので、助成金の使い方も含めてですね、ボランティア集めも含めてやれることをやっていくと。今、市議会の方も含めて、100万本のバラ構想復活ということで、市長、副市長も含めて大分動いておられます。福山の例を含めて。待つんじゃなくて、もうできることからやっていくと。緑化公社なんかもそうなんです、点から線へ。さっき言われましたけど、点というのは駅前でもいいんです。或いは公共施設でもいいんです。市役所の前に草が生えてました。バラが枯れかかって6本ありました。もうすぐに、広報広聴課に行きまして、社員と一緒に見に行きまして、「これどうなってるんだ」ってお話をしました。資産管理課の管理だつてことで、すぐに伝わりまして、雑草を抜いて、やっぱり庁舎の前の薔薇は植えるべきというふうに言ってます。東葉高速に行きまして、本社の前にバラが1本もありませんと。我々は本社の入口の前に、10本バラを植えました。「水やりをお願いします。」と言いました。逆サイドの南側の一番いい面に雑草がいっぱいなので、社員さん3名にですね、ここぜひ雑草抜いてバラを植えてくださいと。南面で日当たりがいい。僕らが植えたのは北面だと。

市川会長

景観作成っていう形で。

浜野委員

何が言いたいかというと、行政が働きかけながら市民が動いて、市民活動で支えていくと一番長持ちがするし底上げになると、これは現在も信じております。だから、そういうボランティア作りをしていってますよ。横に広げようと。自分達は潰れないようにしているというふうに思う。これがバラについては根幹なんではないか。

それから、先程、このペーパーの8のところがありましたけど、副市長にこないだ佐倉の草ぶえの丘をご案内いただいて、向こうの理事長他に会ってまいりました。鈴木省三先生のお弟子さんが理事長をやられて。

市川会長

前原さんですね。

浜野委員

はい。市がもう全面的にてこ入れして、小学校・中学校には、全部バラの教育をし、バラを植えている。だから次元が全然違う。15年間で、そうやってこられた。ですから、市の方も動いておられますんで、向こうは三千人延べボランティアがいるそうで、バラだけで。我々の方はとてもいかないんで、そういったことができるんじゃないか。同じぐらいの街ですから。そういう動きを作っていく、一方では、この二つの柱っていうのは動かないと思うんですね。どこまでいっても、集中してこの二つの柱はもう予算を付け、特化してやるのが一番良いことだと思うんです。やり方は、いろいろこれから。ですから、できることからやっていきたいと思ってます。市民に対して、市民の力を借りて底上げしていくと。それは、行政と政治の後姿というふうに思っております。

もちろん、それに対する商品の開発だとか、バラ園さんを中心にですね、今までやってきたことをもう全部見直して、女性とですね、ターゲットは外国人じゃないかと思いました。アンデルセンもそうですし、そういうものの中で、鈴木省三先生はいかに素晴らしいかっていうレクチャーを2時間受けまして、大変な130品種のバラを開発して、世界に冠たる方だということもよくわかりました。そういう方が近くにおられて、市の方が、草ぶえの丘を含めて八千代市と習志野市と佐倉市の三市で協調して何かできないかということをやっておりますので、簡単に言うとそういうバラの記念館みたいなものを作って、世界に冠たるということを知らしめたらいいのかなと。

新川のことをちょっとだけ触れたいんですけど、僕は、あくまで新川がメインだと思います。私は、たまたま機会があつてバラをやっていますが、現在新川の中で過去作ったものが結構ありますよね。少年自然の家だとか、わんぱくのあれだとか、それから野鳥を観察してキャンプ村だとか、それを止めるだとか潰すとか、もともと水辺、少年、子どもっていう対象でやってきた世界をもう1回見直して、家族連れで子ども達がリピートで来るような所にするということが必要だと思うんです。桜の季節は一過性だと思うんです。当然、否定はしませんけども、そう見直していただけるんじゃないかと、いろいろ調べた

んですよ。例えば、プラネタリウムってありますよね。こういったものが相当新川沿いに、子ども達が興味を持つものがいっぱいある。もう一つは水を綺麗にする。浄水して、水辺で子ども達が遊べる。自然では、鳥とか魚とかですね。今、蛍の里なんか離れた所でやっていますけども、そういったことが本当にできるのかどうか。恒常的に、リピーターが子ども達を連れて、家族であそこに遊びに行こうということが出来るのかどうか。そういうことを、限定してやっていただければと思います。

もう1点は、私はそういうスポーツをちょっとやっていたものですから、高校のボート部にあそこで、戸田や。

市川会長

漕艇ですね。

浜野委員

そうですね。高校のボート部が土日とか昼間に、県立高校でも私立でも、あそこでボートを漕いでいると、非常に活気がある。できるかどうかってのもあるんですよ、川幅とか長さとか。子ども達が集まり、高校生でもボート漕いだらすごいなとか、そういうイメージを持っていただきたい。

市川会長

ボートは、戸田市とか結構しっかりやっていますけど。

浜野委員

あそこはちょっと広いですけど、ここでも練習はできると思います。試合はできないと思いますけどね。

市川会長

はい。ありがとうございました。

一旦皆様からお聞きしましたけれども、これだけはどうしてももう少し話をしたいという方、いらっしゃいますか。よろしいでしょうか。

様々なご意見を頂戴しまして、ありがとうございました。先程申し上げたように、多分話したものは一部だと思いますので、皆さんの書いていただいたメモを回収させていただき詳細を見させていただいて、今後の課題の整理、或いは現状の把握、それに基づいた基本方針策定の部分に活かしていきたいと思っております。では、一旦この議題をここで終了させていただきたいと思えます。

議題2今後の進め方について、事務局より説明をお願いしますか。

事務局（齋藤）

議題2今後の進め方について、資料10仮称八千代市観光振興計画策定スケジュールをご覧いただきたいと思います。こちらは、8月の第1回懇談会の会議資料と同じものになります。現在A案で進めており、事務局案に記載の通り、今年の12月から2月にかけて、ワークショップを開催する予定であります。

その概要が資料11ワークショップの概要及びスケジュールになります。資料11をご覧いただきたいと思います。1の(1)、ワークショップの目的につきましては、計画策定の一環として、八千代市民や八千代市職員、近隣市の視点から本市観光の目指すべき方向性や施策のアイデアを検討していただき、その検討結果を、計画の策定にあたっての重要な基礎資料として活用することを目的として実施いたします。2の参加者につきましては、市内観光施設、市内でイベント等の活動を行っている団体、市の若手職員などを予定しております。スケジュールと検討テーマはこちらに記載の通りでございます。

事務局からの説明は、以上になります。

市川会長

ありがとうございました。私の方で少し補足をしたいと思います。

資料10と11をご覧いただければというふうに思うんですけども、ちょっと一度おさらいをしていきたいと思います。まず、現在振興計画策定のスケジュールの方が、予定通りA案で進んでおります。B案につきましては、早い段階で新型コロナウイルス感染症の状態が非常に厳しい状態が訪れた場合の代案でございますので、今のところA案で、順調に、策定の計画を進めているというところでございます。

11月に今回のこの第2回の懇談会で、先程皆さんから頂戴しました現状認識と課題の整理を一旦させていただきたいと思っております。それも含めて、12月と1月の、1月に第3回の懇談会ありますが、その前までに2回続けてワークショップの開催をしたいと思っております。先程申し上げたように、この八千代市の強み弱み、あるいは課題の整理を、このワークショップのところで整理をし、そういった強み弱み、あるいは可能性が出た中でどんな街にしたいか、将来どんな観光の街にしたいかということをお皆さんで考えてもらう。そんな街にするには、どのような基本方針が必要なのかと言うところに紐づけていきたいと考えています。

それを受けて、第3回の懇談会で皆さんと最終的な基本方針の策定というところに入っていきたいと考えています。その後、ワークショップの第3回目の開催がありますけれども、ここでは、その基本方針に従ったより具体的な観光施策の推進、あるいは展開、そういったものを考えていければと思います。次年度になりますけれども、第1回目の観光懇談会の中で、具体的なそういった中身についても、そこでコンクリートしていきたいと考えております。

実は、今回2年間という長い期間で策定を考えていますので、第4回目のワークショップの開催、これについては未定という形でございますけれども、これが開催された暁には、具体的なアクションプラン、いつ何をやるのかというところまで踏み込んで話をしていきたいと思っておりますし、開催がなかなか難しい場合には、事務局の方でアクションプランの案を作った中で、また皆様の方にフィードバックさせていただきながら、具体的な計画の中身について、考えていきたいと思っております。一旦、今後の流れをお話させていただきました。

12月18日に第1回目のワークショップがありまして、様々な方々にご参加の予定しております。コロナ禍のちょっと厳しい状況でございますけれども、それに配慮しながら、忌憚ないご意見をまた頂戴して、皆様の方にフィードバックを重ねていきたいと思っておりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。私の方からの補足説明等は以上でございますので、この件につきまして、皆様方からご意見等ございませうか。このようなスケジュールで今後進めていくということによろしいでしょうか。

はい。ありがとうございます。

それでは、議題の3その他について事務局より説明をお願いいたします。

事務局（富田）

はい。議題3の市が後援している事業を紹介させていただきます。

まず、こちらのチラシを、京成バラ園さんのものですね。こちらは、10月9日から、明後日11月15日まで京成バラ園さんで行われている「オータムローズパーティ2020」のチラシとなります。秋のローズガーデンには1,000品種、7,000株のバラが咲き誇ります。今年は、バラとガラスと水をテーマにした、3メートルを超える大型インスタレーションも展示されております。

続きまして、こちらは11月22日、23日に行われる「第4回黒沢池のたたら祭」のチラシになります。こちらのイベントでは、古代製鉄遺構、製鉄、鍛冶に関する実演や、展示が行われる予定です。

最後に、こちらのチラシをご覧ください。こちらは、12月20日に行われる「キャンドルナイト2020」のチラシとなります。こちらのイベントで

は、描かれた紙袋の中にキャンドルを灯し、その中に浮かび上がる絵を静かに眺めながら様々なことをゆっくり考えるイベントとなっております。今年は、感染症対策のため完全予約制で、ワークショップや音楽、飲食ブースの出展を行う予定です。なお、一部のイベントにつきましては、YouTubeを使って生配信される予定となっております。以上となります。

市川会長

はい。ありがとうございました。

事務局の方から説明がありましたけれども、せっかくですので、丸山委員、「オータムローズパーティ2020」の件について、状況や入園状況の報告とかがお願いしたいと思いますが。

丸山委員

まず、バラ園の状況は温度が涼しく、開花が1週間ぐらい例年よりも遅れて咲きましたので、現在も良い状況で、まだ楽しんでいただける状況になっております。

入園者の状況ですが、ここにおられる方々始め、多くの方々のご協力があり、秋バラのシーズンの10月、11月の入園者数の累計の最高記録を更新中であります。毎年、大体秋バラの10月、11月は、累計で2万5,000人から3万人の中で推移しているんですけども、過去最大は、2001年の3万5,600人でしたが、昨日現在、11月12日現在で、入園者数の方が4万365人ということになっており、記録を更新中であります。非常にうれしい状況であります。

市川会長

ありがとうございます。非常に、素晴らしい数字だと思いますので、さらに伸ばしていただきますように頑張ってくださいというふうに思います。

あとどのぐらい咲いているのでしょうか。あと1週間ぐらいは、見頃ですか。

丸山委員

先日、京成電鉄経由でニュースリリースを出したんですけども、そこには、あと2週間とありました。あと10日から2週間ぐらいは見られると思います。ちょっと徐々に花の数が減っていつてしまうんですけども、今日の時点ではまだ花は多いので、あと10日～2週間は楽しんでいただけたと思います。本当にありがとうございました。

市川会長

はい。それでは、その他について、委員の皆様から何かございましょうか。

よろしいでしょうか。それでは、他にご意見なければ、事務局から連絡事項
お願いいたします。

事務局（渡邊室長）

本日は、大変貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。
皆様からいただきましたご意見を参考としまして、今後の計画策定を進めて参
りたいと考えております。先程会長の方からお話ございましたが、書いてい
ただいたメモにつきましては、机の上に置いといていただければ、後程事務局
の方で回収をさせていただきたいと思います。

また、次回の会議でございますけれども、年明けまして1月29日の金曜
日、本日と同じこちらの会場で予定してございます。開催が決まりましたら、
また改めてご連絡をいたしますので、よろしくお申し上げます。以上で
す。

市川会長

はい。ありがとうございました。

それでは、本日の議題はすべて終了いたしましたので、これで令和2年度第
2回八千代市観光振興懇談会を閉会させていただきます。本日は、貴重なご意
見を頂戴いたしまして、本当にありがとうございました。お疲れ様でした。

————— 閉 会 —————